

ふじわら たけし  
藤原 健史さん

岡山大学術研究院 環境生命科学学域 教授

2022年6月5日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



## 海洋プラスチック 対策探る

国連は6月5日を世界環境デー、6月8日を世界海洋デーとして、世界の人々の環境意識を高めようとしている。海洋動物の死につながる海洋プラスチックごみの問題は、近年マスゴミに大きく取り上げられ、世界で対策が始まっている。

この海洋プラスチックごみは、不法投棄など廃棄物管理の不十分さに由来するため、ごみ収集や処理が整備されていない発展途上国で多量に発生している。



トンレサップ湖岸に散乱したプラスチックごみ

そこで、岡山大・藤原研究室は「カンボジア・トンレサップ湖における水上集落住民参画型プラスチック汚染対策事業」を国際協力機構（JICA）「草の根技術協力事業」として応募し採択された。

トンレサップ湖は広さが乾期には琵琶湖の4倍、雨期には20倍以上にもなる東南アジア最大の湖で、周辺に100万人規模の人々が水上に船で暮らしていると言われる。漁業を生業としている低所得層の世帯が多く、ごみ収集サービスを受けられないため、ごみを湖上に捨てる習慣がある。

捨てられたプラスチックごみは湖上に浮遊、または湖底に沈み、雨期に流されて太平洋に流出する。プロジェクトは、水上集落の住民にプラスチックごみによる環境汚染や分別の重要性を知ってもらい、自律的なリサイクルを実現させることを目的としている。

藤原研究室ではこれまでに東南アジアで、低炭素型廃棄物マネジメントの計画やリサイクルシステムの最適化などの研究に携わった。それを生かして本プロジェクトではプノンペン王立大学と協力し、現地住民のごみ排出の調査やごみ投棄の意識調査、現地分別リーダーへの研修、住民啓発イベントなどを実施する。